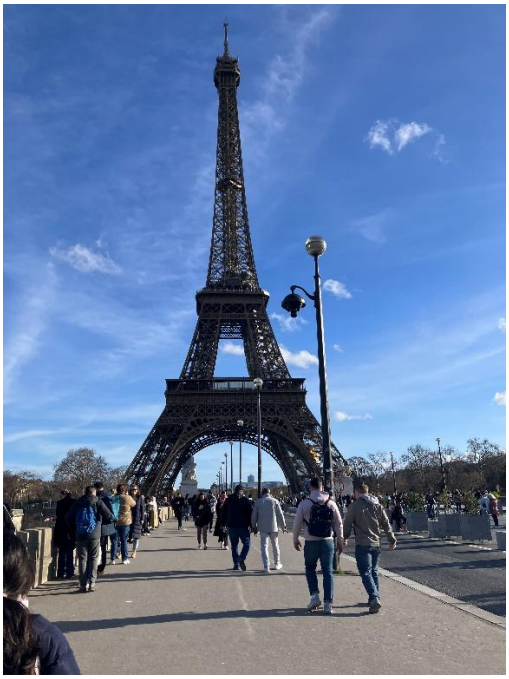
発達検査と対人援助学

㉔ フランスでの学びから考える対人援助(1)

大谷多加志

前号の短信に書きましたが、今年の２月にフランスでの児童福祉施設の視察研修に参加しました。現地滞在は実質７日で、うち５日間は毎日どこかの施設で終日研修に参加していました。今回から数回に渡って、フランスでの経験やそこでの学びについて書いてみようと思います。今回はフランス研修が決まったいきさつと、渡航までの過程について書いてみようと思います。



安發さんのフランス研修

フランス行きを決めたきっかけは、本当に些細なことでした。直接のきっかけは、マガジン執筆者でもある櫻井さんのFacebookの投稿が目に入ったことです。櫻井さんは１月のフランス研修に参加することになっておられたようで、投稿の内容としては「２月の研修参加予定者が団体でキャンセルしてしまい、コーディネーターである安發さんが困っておられる」ことが伝えられ、関心がある人は今からでもぜひ！と書かれていました。そこまで深く考えずに、手帳をめくってみると、本当に偶然ですが２月の研修日程と重複している仕事がほんの少しであることがわかりました。“ひょっとすると行けるかもしれない…”と自分の中でフランス行きがほんのわずかに、選択肢として検討され始めました。

ひとまず超えるべき壁が２つありました。まず、少しではありますが、研修期間とかぶっている仕事があるのでこれが調整できるかどうか。そして、家族の了解が得られるか。この２点でした。前者の方は、職場の誰に、どう相談するかを入念に検討して一手ずつ調整を進め、２日後には研修期間中、職場を離れても大丈夫な状況を作ることができました。家族の了解についても、飛行機旅が好きな息子には「ズルい」と言われましたが、まあいいだろうということになり、無事理解を得ることができ、数日前にはほんの思い付きだったフランス行きが実現することになりました。

ちなみに、このフランス研修のコーディネーターはマガジンの執筆者でもある安發明子さんなのですが、この研修の参加者は現在では累計 200 名を超えているそうです。日本とフランスをつなぎ、日本の福祉を変えるミリタン（同志）を増やしていこうという目標の実現に向け、着実に歩みを進めておられます。関心がある方はぜひフランス研修参加者の研修報告を聞いてみてください（報告会は参加費無料です）。

47 歳、はじめてのおつかい

それで、フランス行きを決めたのはいいのですが、実は解決すべき事柄はほかにもたくさんありました。そもそも Facebook 記事を見たのは 12 月も半ばを過ぎた頃でした。当然、この時点では飛行機の手配もできていません。研修期間中の宿と研修先は、コーディネーターの安發さんが確保してくださっているので、まずは往復の旅券を手配する必要がありました。

幸い、パスポートは持っていました。2020 年にオランダでの国際学会で人生初の研究発表を行う予定があったので、その時に準備したものです。英文の抄録を提出し、無事発表が採択され準備を進めていた中で、コロナ禍がやってきました。結果、2020 年の学会は中止になり、2021 年に延期されました。2021 年についても、オーストラリアでの開催の予定が、結局オンライン実施に変更され…、と紆余曲折があり、結局参加を取りやめました。

結果的に海外渡航の経験は、数年前に家族で出かけた台湾旅行のみです。大学時代は貧乏学生で旅費が出せず、社会人時代も福祉現場で長い休みがほぼ取れず…と理由をつけて何となく避けているうちに、ろくに国外に出ないまま年を重ねてしまいました。どこかで“外国のことは遠い世界のことのまま人生を終えるのかな”と思っていた部分があったことも、今回のフランス研修に乗っかってみようと思い切れたひとつの理由だった気がします。

全く旅慣れていない上に、一人での海外も初です。当然、旅路もスムーズではなかったのですが、どうせならその経過についてもこの機会に記しておこうと思います。

まずはフライト予約

ともかく飛行機を確保せねば話にならないと思い立ち調べ始めました。とはいえ、相場もわからず時間もないので、こうなってはとエールフランス航空の公式ページで航空券を探すことにしました。往路に関しては、研修の前々日の夜にシャルルドゴール空港に到着できる便が見つかりました。空港着が 19 時というのと、韓国の仁川国際空港での乗り換えがあるというのが不安ではありました。ですが、直行便を探しても見つからず、下手をするとドバイでの乗り換えになる便がめちゃくちゃ高額で表示されたりして、実質的にはこれしか選択肢がないような状況でした。帰路に関しても、研修終了の翌日発の便はほとんどが中東経由で、乗り換えにかかる時間も膨大かつ、航空券も高額…という状況で、結果的にフランスでの滞在を 1 日伸ばして、日曜日の昼の直行便を使うのがベストであるように思われました。

結果、往路は「関空⇒仁川国際空港（アシアナ航空）、仁川国際空港⇒シャルルドゴール空港（エールフランス）」、帰路は「シャル

ルドゴール空港⇒関空（エールフランス）」の航空券を取り、旅程が決まりました。

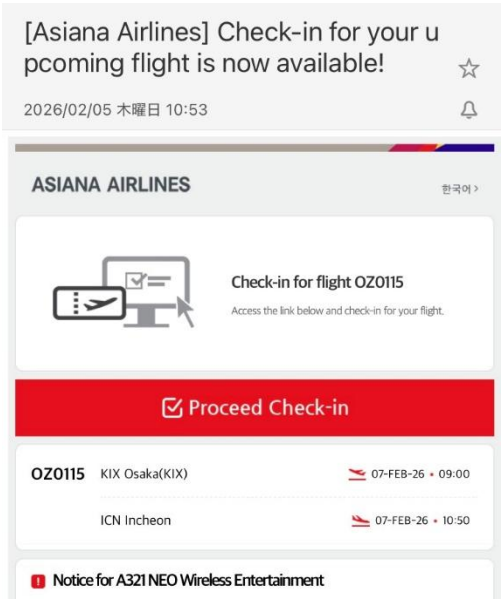
乗り換えと宿問題

旅券が取れてホッとしたのもつかの間、宿の問題が残っていました。フランス滞在を 1 日伸ばしたため、研修期間終了後の 1 泊分については、自力で宿を手配する必要がありました。早速 Expedia や booking.com などを使って宿を探すと、候補は出てくるのですが、手頃な値段に思えるものはすべて「ホステル」と書かれています。一人旅で、2 段ベッド 2 つの 4 人部屋で宿泊というのは、さすがにハードコース過ぎます。とにかく個室で泊まれて、かつ、研修中の宿からも遠くないところがないかと探していると、何とか 2 万円弱くらいで個室に泊まれる宿が見つかりました。

次に、乗り換え問題です。航空券をよく見ると、仁川国際空港での乗り換え時間は 1 時間 50 分になっていました。公式が販売しているのだから乗り換えはできるのだろうと、深く考えていなかったのですが、調べてみると「最低で 2 時間、余裕を見るなら 2 時間半から 3 時間あるとよい」と書かれていました。これはマズイですが、もう航空券は購入済です。もうこれで何とかやりきるしかないということで、YouTube で「仁川国際空港　乗り換え」と検索し、何本かの動画を確認して当日の乗り換えに備えました。

オンラインチェックインの罠（？）

後は当日を迎えるだけと準備しきったつもりでいた 2 月初旬、エールフランスからメールが届き、内容を確認するとオンラインチェックインについて案内でした。乗り継ぎの時間が短いので、チェックインの手続きが先に済ませられるならその方がいいだろうと考え、若干苦戦しつつチェックインを完了しました。すると翌日、今度はアシアナ航空からオンラインチェックインの案内が届きました。別便なので、そりゃそうかと思いつつこちらも手続きを進めたところ、エラーになって手続きが完了しません。ヘルプページを見てもよくわからないのですが、要するにエールフランスの公式でアシアナ航空のチケットを取っているので、その辺りの兼ね合いで手続きが完了できないということだけがわかりました。ヘルプページの結論としても、当日窓口で直接手続きをしろという感じだったので、当日に何とかするしかなさそうです。結果、往路の半分はチェックイン済みで、半分はエラー、という何とも不安な状態で当日を迎えることになりました。



私を惑わしたオンラインチェックインの案内

当日の空港カウンターで、無事アシアナ航空のチケットを発券することができまし

た。ですが今度はエールフランスのチケットが発券できず空港スタッフの方が苦戦しておられました。中途半端にオンラインチェックをしてしまったためかもしれません。エールフランスのアプリを開いてみると、航空券らしき画面は出て、ターミナル番号まではわかるのですが、発着ゲートの番号は空欄のままで、何かしら未完了である雰囲気です。スタッフの方に、仁川国際空港のエールフランスのカウンターで手続きするようにと言われ、ひとまず飛行機に乗り、韓国へ向かいました。

韓国まではほとんど国内線と同じ感覚です。機内には日本人も多く、まずは最初の行程を無事進めていることに安堵しました。しかし、仁川国際空港に着陸態勢になった時、ふと時計を確認してみて気づきました。到着が 20 分ほど遅れています。途中で何か韓国語のアナウンスが流れているとは思っていたのですが、もちろん全くわかりませんでした。ここから、1 時間半での人生初乗り継ぎが始まりました。

仁川国際空港での苦闘

アシアナ航空の機内にいる時から、ネックだったのはネット環境がなかったことです（機内 Wi-Fi がありませんでした）。また、フランスでの eSIM の準備はしていたのですが、経由地の韓国でのネット接続はもちろんありません。事前に見た YouTube で、仁川国際空港の Wi-Fi が使えるということだけは知っていましたが、接続方法やパスワードなどはよくわかりません。飛行機を降り、事前に予習した通り“緑の Transfer の看板”を必死に辿って歩きながら、途中にあるはずのエールフランスのカウンターを探しつつ、Wi-Fi 接続を試みました。そのうち、Wi-Fi につなげることができ、ネット環境が復活。エールフランスのアプリを開くと航空券が表示され、発着ゲートについても 44 番と表示されていました。緑の看板と、44 番という番号だけを頼りに、右折左折を繰り返し、エスカレーターを降りたりもしているうちに、ショッピングモールのような大きな空間に辿り着きました。実際に、高級な化粧品のショップが並んでいるようで、店の前では長身の男性が試供品らしきものを配っています。私にも差し出されましたが、こちらはそれどころではありません。“44 番、44 番…”と呪文のように繰り返しながら視線を彷徨わせていると、高級化粧品ショップのすぐ横に 44 と書かれた緑の看板が見つかりました。そして、看板のところに行ってみると、驚いたことに目の前に搭乗口がありました。

たどり着けてホッとはしたのですが、結局、乗り換えの道中でエールフランスのカウンターを見つけることはできませんでした。改めてチェックインの手続きが要るのか、それともこのスマホのチケットらしきもので乗れるのか…。係員らしき人がいたので、意を決し、画面を見せながらたどたどしく「Is this ticket available?」と尋ねました。すると係員の方は、微妙なうなづきとともに、私を搭乗口に並ぶ列の方に促しました。“どうやら乗れるっぽい？”と思いましたが、本当に乗れるのかまだ確信がありません。時計を見ると飛行機の離陸時間まであと 40 分程度です。本当はトイレにも行きたかったですし、空港を早足で進んで汗だくで喉もカラカラでしたが、今から列を離れる度胸はなく、そのまま順番を待ちまし

た。搭乗口のゲートにスマホをかざすと、電子音とともにゲートが開きました。飛行機に乗れます。心底ホッとして、家族にも「無事乗り換えできた」と LINE を送ろうと思ったのですが、搭乗口を抜けたエリアは既に Wi-Fi の圏外でした。今さら LINE を送るために戻ることもできず、そのまま機内に乗り込みました。

飛行機の前まで来て心底安堵した

フランス到着、そしてパリ市内へ

乗ってしまえば、あとは 13 時間のフライトでフランスへの到着を待つだけです。幸いにも機内 Wi-Fi が使える便だったので、離陸後しばらくして家族への連絡を取ることもできました。13 時間はやはり長かったですが、幸運なことに隣が空席だったため、多少は手足を伸ばすこともでき、ウトウトと仮眠を繰り返しているうち、ようやくフランスに到着しました。

空港に着いてホッとしたのもつかの間、今度は預けた荷物を取りに行かなければなりません。また、同じフランス研修に参加する人たちと空港で合流し、一緒にタクシーで市内に向かう予定となっていたので、どこかで落ち合う必要もありました。ともかくまずは荷物の受け取りをすべく、何となく国内線のノリで、同じ便に乗っていた人のあとを付いて歩いていきました。しかし、なぜかだんだんと人が散り散りになっていって、気づけばひとりになっていました。手荷物受け取りの場所は全然わかりません。何となく中国語で「荷物」と書いてある風に見える看板をたどると、“ここは一度出たら戻れないのでは？”という感じのゲートがあり、直前で躊躇し、また中を彷徨いました。結果的にやはりゲートを出るしかないと判断し、ゲートを出てエスカレーターを下ると、そこは他のターミナルに移動するトラムの乗り場でした。“これは乗っていいものか…”と迷っていると、トラムの中に日本人らしき男性の姿が見え、遠目でしたが、事前に同じ研修に参加すると聞いて Facebook でつながっていた人のように思えました。慌ててトラムに乗り込み確認すると、やはり同じ研修の参加者の方で、幸運にも迷子の道中で合流を果たすことができました。

荷物受け取りのところで、もうひとりの研修参加者とも合流でき、3 人で市内に向かうことになりました。市内行のタクシー

乗り場は案内板が出ており、料金も市内であれば一律 65 ユーロとのことでした（コーディネーターから、一律 65 ユーロなのでボッタくられないように！と注意喚起されていました）。当時のレートは 1 ユーロ 185 円ほどでしたから、一人で利用するのは躊躇われますし、3 人利用で割り勘にできるのはありがたいことです。乗り場で待っていると、トヨタのアルファードくらいの大きな黒のワゴン車がやってきました。見たところ、タクシー会社の車というより、自家用車がライドシェアで使われているような印象です。スーツケースを車両後部スペースに積んでもらい、出発する前にコーディネーターさんの忠告を思い出して、「65 ユーロだよね？」とドライバーに確認してみました。ところが返答は「違う。85 ユーロだ」「（この車両は）特別だから」でした。一律 65 ユーロとは聞かされていたものの、こう言われるとやや怯んでしまいました。拙い英語で、コミュニケーションがままならないことも、気後れの一因になっていたと思います。私が躊躇していると、同乗する研修参加仲間が「じゃあ他のにします」と言い、「それはダメだ、順番だから」とドライバーが返し…と若干の押し問答になりました。すると、空港スタッフ 3 人くらいが一斉に走ってきました。一瞬、何だか大ごとになってきた気がして慌てましたが、空港スタッフは事情を確認し「この乗り場は一律 65 ユーロだ」とドライバーを叱り飛ばしていきました。ドライバーも、上乗せできるかをワンチャン試していた感じだったのか、すぐに引き下がり、初の海外における値段交渉は無事 65 ユーロで決着しました。

タクシーで市内までは 1 時間弱くらいです。よく考えると運賃でひともめしたドライバーさんと一緒の車内なので、私はちょっと気まずく感じたのですが、ドライバーさんは好きな音楽をかけながら鼻歌まじりに運転し、途中家族から電話の出たあと、自分の家族のことなどを気安い様子で話してくれました。最初は気まずさを払拭しようとしているのかとも考えたのですが、実際のところ、値段の交渉のことはもうすっかり終わったことになっていて、感情的な引っかかりが無いだけのようにも見えました。人との関係性のあり方、主張の仕方の違いを感じ、さっそく異文化とのすり合わせが始まったように感じた場面でした。

今回はフランスまでの旅路だけで終わってしまいました。次回からは研修の内容や、そこで学び、感じたことについて書いていこうと思います。